

# 第一表 重要物資の国際比価 (31年11月末現在)

(注) 括弧内は前月比騰落

品目	単位	区分	日本		米 国	英 国	そ の 他
			邦 貨 建	外 貨 建			
織 維	綿糸(20番手)	封度	M ¥ 205.0	¢ 56.9(+2.4)	¢64.0~65.0(0)	¢ 61.9(+1.2)	¢ホンコン41.7(+1.8) イタリア55.2(+0.4)
			E 190.8	53.0( 0)	16.5(0)		ホンコン14.0(-0.2)
	綿織物(2003)	碼	M 55.2	15.3(+0.5)			
			E 52.9	14.7(+0.4)			
	人絹糸(ビス100D)	封度	M 261.0	72.5(+3.9)	86.0(0)	62.9(0)	イタリア82.4(0)
スフ糸(30番手)	"	M 140.0	51.0( 0)	76.8(+0.8)	61.0(0)		
		E 144.0	40.0( 0)				
鉄 鋼	銑鉄(鋳物用2号)	屯	Q 31,000	\$ 86.1(+ 6.9)	\$ 62.0(0)	\$ 47.2(0)	\$ベルギー 72.0(0) フランス59.5(0)
			E 47,700	132.5(+ 8.5)	111.9(0)	96.0(0)	イタリア95.0(0)
	棒鋼(19ミリ)	屯	M 75,000	208.3( 0)	122.5(0)	119.5(0)	ベルギー103.0(0) フランス114.0~116.0(+1.0)
			E 57,600	160.0(+10.0)			ブラジル113.0(0) 西ドイツ120.0(0)
	厚板(12ミリ)	"	Q 54,700	151.9(+11.1)	107.3(0)	93.8(0)	西ドイツ117.0(0) フランス120.0(0)
薄板(1.6ミリ)	"	Q 62,700	174.2(+11.1)	103.0(0)	103.3(0)	西ドイツ147.5(0) フランス153.8(0)	
非鉄金属	電気銅	封度	Q 154	¢ 42.9(-3.7)	¢ 36.0( 0)	¢	¢ベルギー 34.9(-0.9)
			M 213	59.2(+6.3)	33.7(-1.5)	34.8(-1.8)	
	電気亜鉛	"	Q 64	17.9(0)	15.8( 0)	M14.8(+0.1)	Mメキシコ 14.3(-0.2)
			Q 50~59	14.0~16.4(0)	13.5( 0)	M12.8(+0.3)	Mメキシコ 12.0(-0.3)
	アルミ	"	Q 386	107.1(0)	110.1(-2.4)	M106.6(+3.4)	Mシンガポール102.6(+2.5)
Q 91~100			25.2~27.7(0)	27.1( 0)	24.6( 0)	カナダ 24.5(0)	
窯業	セメント	屯	M 6,300	\$ 17.5(+1.1)	\$21.0~23.5(0)	\$	\$西ドイツ16.5~18.3(0) フランス15.8(0)
			E 6,300~6,750	17.5~18.8(0)		14.0(0)	西ドイツ13.5~14.5(0)
化学製品	硫酸(安)	屯	E 21,067	58.5(0)	40.0(-2.0)	52.0( 0)	西ドイツ47.0(0) イタリア49.0(0)
	苛性ソーダ(固型)	"	M 46,000	127.8(0)	82.0( 0)	79.0(+1.0)	
	レーヨンパルプ	"	Q 80,799	224.4~226.6(0)	CIF 209.0(0)		カナダ C I F 200.00(0)
動植物製品	大豆原油	ドラム	M 28,000	77.8( 0)	52.5(+1.0)	59.0(+1.0)	
	生ゴム(RSS3号)	封度	M 130	¢ 36.1(+1.9)	¢ 36.5(+1.5)	¢38.7(+1.9)	¢シンガポール 35.1(+2.4)
	原皮(牛)	"	M 80	22.2(+0.9)	14.5~16.0(0)		
燃料	石炭(粘結炭)	屯	M 7,050	\$ 19.6(+0.3)	\$ 12.9(0)		
	重油(C)	坪	M 10,150	28.2( 0)	C&F 34.4(0) 20.2(0)		

備考

1. 区分欄、Qは建値、Mは市中価格、Eは輸出価格。
2. 織 維
  - (1) 海外価格はロイター電による。
  - (2) 香港綿布は2003番相当のもの。
  - (3) 人絹糸海外価格は150D価格を採用(わが国での150Dの生産取引はきん少)
  - (4) 英国のスフ糸は36番手単糸縮紡式によるもの。
  - (5) 前月の米国スフ糸価格は76セントに訂正。
3. 鉄 鋼
  - (1) 日本のQ(生産者価格)は銑鉄では富士製鉄12月積建値、鋼材では八幡製鉄1,2月積建値より全国平均運賃銑鉄1,000円、鋼材1,300円をそれぞれ差し引いて算出。
  - (2) 海外は銑鉄
    - ベルギー 鋳物用高純銑ニムツソン(基準地)渡し
    - フランス " ロングイ(") "
    - 英国 ベーシック銑
  - (3) 英国は公示価格よりわが国同種運賃を差し引いて算出。
  - (4) 米国はU.S スチール社発表値。
  - (5) 西ドイツは公示価格から取引税4%を差し引いた。
  - (6) 厚板は米国、英国9~38ミリ、ブラジル9.5~25ミリ。ベルギーはトーマス鋼。

- (7) 薄板は米国1.7ミリ、英国3ミリ以下、西ドイツ、フランスには寸法エクストラそれぞれ7.93ドル、4.35ドルを加算。
4. 非鉄金属
  - (1) アルミの国内建値は精錬業者販売価格。
  - (2) 亜鉛、アルミ国内建値の安値は輸出原材料向け特価。
5. セメント
  - フランスは包装代を含まない。
6. 化学製品
  - (1) 苛性ソーダはアンモニウム法製品価格。
  - (2) レーヨンパルプ国内価格は7~12月期建値。海外価格は7~9月CIF日本価格。
7. 動植物製品
  - (1) 生ゴムの英相場はRSS1号。
  - (2) 米国原皮銘柄バックースライト紐現物相場、国内相場は取引場位が枚数のため概算。
8. 燃 料
  - (1) 内外とも約8,000 cal 国内炭は本州特定製鋼所向け31年度下期直売炭価。
  - (2) 重油の海外価格はニューヨークタンク車価格、わが国は大手筋鉄鋼メーカーの購入価格。

## 第二表

## 海外価格を100とするわが国価格指数の推移

(注) 備考は第1表に準ず。卸売物価指数は昭和25年6月基準指数の比較。

品目	区分	基準国	28年9月	29年9月	30年9月	31年3月	31年6月	31年9月	31年10月	31年11月
綿糸	M	米	105.3	90.5	83.9	83.0	87.0	92.7	85.2	87.5
綿織物	M	"	102.5	86.2	84.8	91.0	~88.3 95.5	~91.2 93.3	~83.8 96.4	~88.9 92.7
人絹	M	イタリア	91.9	66.7	65.5	83.3	91.0	90.3	83.3	88.0
スフ	M	英 国	74.2	57.5	59.7	61.7	69.8	66.2	62.0	63.8
棒鋼	Q	ベルギー	117.2	89.4	108.6	110.3	120.4	120.4	120.4	128.6
厚板	Q	西ドイツ	107.1	91.2	108.3	118.4	128.6	128.6	120.3	129.8
電気銅	Q	米 国	135.0	126.9	102.0	102.4 ~109.6	112.6	116.5	129.4	119.2
硫酸	E	西ドイツ	126.2	118.4	115.1	118.5	120.9	120.4	124.5	124.5
苛性ソーダ	M	英 国	179.1	136.9	134.1	155.4	153.6	162.1	163.8	161.8
レーヨンパルプ	Q	カナダ	123.4	116.8	115.4	109.5 ~111.0	109.5 ~111.0	112.2 ~113.3	112.2 ~113.3	112.2 ~113.3
大豆原油	M	米 国	121.0	182.9	185.3	129.2	148.4	148.3	151.1	148.2
生ゴム	M	シンガポール	115.1	115.0	110.9	103.4	103.6	100.7	104.6	102.8
原皮	M	米 国	172.3	149.4	138.9	121.7 ~125.3	132.7 ~141.3	136.3 ~124.6	146.9 ~133.1	138.8 ~153.1
卸売物価指数	}	米 国	141.0	136.0	133.4	134.6	135.4	138.5	138.0	—
		西ドイツ	130.8	126.1	122.5	122.8	126.1	129.1	127.8	—

## 解 説

11月中の海外市況は、小麦、砂糖、大豆油、ゴム、皮革、羊毛などが騰貴し、また海上運賃もタンカーレート中心に一段と引締りをみせるなど、中東紛争以来堅調を増している。しかし、鉄鋼については、その値上りは欧州のごく一部にみられるにとどまり、非鉄金属も英国、シンガポールでは概して強調を示しているが、米国では軟化傾向にあるなど、地域的にかなりのアンバランスがみられる。なお、国際商品相場指数も、米国ダウジョーンズ指数は0.6%の微騰にとどまったが、紛争の影響を最も強くうけている英国のロイター指数は、6.3%とかなり大幅に上げた。

一方、わが国市況は引続く内需の活況に加え、中東紛争の長期化予想から総じて堅調に推移、鉄鋼建値の引上げをはじめ、繊維、石油、石炭、セメント、食料品などほとんど軒並みに騰貴した。このため前月やや改善した国際比価は、海外の堅調にもかかわらず、再び悪化の傾向を強めた。

次に主要商品別に内外価格の動きを概観すると以下の通りである。

(1) 繊維 国内の繊維市況は、月初一時落着き商状をみせたが、季節的な内需の増加に加えて、スエズ航行途絶の長期化予想から、中旬以降綿糸、人絹糸を中心に再び反騰に転じた。その他スフ糸、梳毛糸、生糸も騰貴し、織物類も原糸高に追従して値上りした。

これに対し海外市況は香港綿織物の微落を除けば、香港、イタリア、英国の綿糸および米国のスフ糸が騰貴し、その他は保合いながら総じて強含みとなった。

しかしわが国の騰勢が海外に比較して大きいため、割安幅は縮小した。なお、国内価格に比し輸出価格が割安といふ、ういゆる二重価格の関係は、前月かなり縮小、スフ糸のごとく全く解消したのもあつたが、当月は国内価格の値上り幅に比し、輸出価格のそれが小さかつたため総じて再び拡大した。

(2) 鉄鋼 欧米主要国の国内価格は、世界的な需給窮迫を背景として上昇の傾向にあり、英米仏においては建値再引上げの動きもある。しかし、11月中は大きな動きはみられず、中東紛争も比較的平静に迎えられ、わずかに欧州共同体加盟国輸出実勢価格が1ドル方の引締りをみせたに過ぎなかつた。

一方わが国の市中価格は、動乱発生によつて月初急反発したが、その後欧州ものの輸入順調を伝えて反落、月末比較では前月と同水準となつた。しかし、取引の大半を占める建値が2,500円(7ドル)ないし4,000円(11ドル)引上げられたため、国際比価関係は再び悪化した。わが国の建値引上げは、本年に入つてから3回、引上幅は棒鋼ベースもので通計2割2分に及んでおり、欧米主要国の1回、引上幅も1割にみたないのと比較して騰貴率、回数とも大きく造船機械など加工輸出商品の国際競争力に及ぼす影響が注目される。

(3) 非鉄 海外市況はスエズ紛争から銅、鉛、錫など一時高騰したが、その後落着きを取戻し、特に銅はすでにほぼ紛争前まで下げた。もつとも錫は、産地の偏在と海上輸送距離が長いと、紛争発生前に比べなおかなり高い水準にある。

一方わが国は、銅の建値が引下げられ、割高幅を縮小したが、市中相場は、銅、鉛とも内需活況に加えて、輸入の遅れとストなどから品薄気配濃化し、再び強調を示した。このため、市中価格比較での国際比価は悪化した。また、錫は米英は軟化、シンガポールは騰貴と区々な動きをみせたが、わが国は保合いのため、英国より割高となり、米国には割安幅を、シンガポールに対しては割高幅をそれぞれ縮小した。

(4) その他の商品 レーヨンパルプは内外とも保合

い、生ゴムは内外ともほぼ同程度騰貴したため、国際比価関係には格別の変化はみられなかつた。苛性ソーダ、大豆原油はわが国の保合いに対し、西欧は騰貴したため割高幅をちぢめた。

しかし、原皮は内外とも騰貴したが、わが国の騰貴率が大きいため、硫安はわが国の保合いに対し米国は軟化したため、それぞれ割高幅を拡大。またセメントは海外の保合いに対し、わが国は反騰に転じたため、欧州との比較ではさらに割高となり、米国との比較では割安幅がちぢまつた。

## 日 誌 (昭和 31 年 11 月)

### 国 内

- |   |   |
|---|---|
| <p>1日 ○全信連、信用金庫振興預金の金利引下げを実施<br/>(現行日歩2銭を1銭8厘へ)、かつ振興資金勘定を設定</p> <p>5日 ○政府、31年度産水陸稲予想収穫高(最終分)を6,980万石と発表</p> <p>9日 ○政府、閣議で第3次余剰農産物の受入れ方針決定<br/>○資金審議会、上期銀行貸出に関する意見を政府に答申</p> <p>12日 ○政府、第25臨時国会召集</p> <p>13日 ○本行政策委委員安川第五郎氏辞任</p> <p>16日 ○政府、カンボジアとの経済協力の一環としてキリロム都市建設に政府出資を行うことに決定<br/>○本行政策委、現行農業手形制度および金利指導(対農家貸出金利日歩2銭5厘以内)を明年度も引続き実施と決定</p> <p>17日 ○政府、全地方公共団体の30年度決算見込みを発表</p> | <p>20日 ○本行政策委、外国為替引当貸付(アメリカ合衆国通貨表示)の利子歩合引上げを決定(現行日歩7厘5毛を8厘へ、外国為替公認銀行の手形買取日が11月19日以降のものを引当とする貸付から実施)</p> <p>21日 ○政府、東銀を除く甲種外国為替銀行11行の預託ポンド貨20百万ポンドの半額引揚げを実施</p> <p>22日 ○本行、株式市況の騰勢を重視、4大証券に対し自重を要望</p> <p>24日 ○政府、特殊核物質の貸借に関する日米協定調印</p> <p>26日 ○政府、31年度下期農業観測を発表</p> <p>29日 ○損害保険協会、海運向け金利の引下げを決定(現行日歩2銭7厘を2銭6厘へ、12月1日より実施)</p> <p>30日 ○政府、日比賠償の初年度実施計画を決定、フィリピン使節団と公文交換<br/>○本行総裁新木栄吉氏辞任、後任に輸出入銀行総裁山際正道氏就任</p> |
|---|---|

### 海 外

- |   |  |
|---|--|
| <p>1日 ○カナダ公定歩合制度改正<br/>○フランス銀行、預金金利の最高限を設定、実施<br/>○英仏、エジプトと外交断絶<br/>○日・豪通商会談開始</p> <p>2日 ○北ヴェトナム自由化計画発表、1957年初に総選挙施行の予定</p> <p>3日 ○中共・インドネシア貿易協定調印(北京)</p> <p>4日 ○ハンガリー・ナジ首相辞任、カダール首相就任</p> <p>5日 ○英仏空艇隊ポートサイド降下</p> <p>6日 ○米大統領選挙、アイゼンハワー再選さる。<br/>○英仏、エジプトにおける軍事行動の停止を命令</p> <p>9日 ○周・ヌー共同声明、中共軍1941年の国境線まで撤退につき両国の意見一致</p> <p>10日 ○仏、重油の消費制限措置発表(工業用20%、一般33%削減)</p> | <p>14日 ○インド、ビルマ、セイロン、インドネシア4か国首相エジプト問題などにつき共同声明発表</p> <p>17日 ○ガット第11回年次総会閉会</p> <p>18日 ○イラク、トルコ、パキスタン首脳会談</p> <p>20日 ○英、石油消費25%削減措置発表</p> <p>22日 ○スウェーデン国立銀行、公定歩合を従来の3.75%から4%へ引上げ</p> <p>24日 ○港湾スト、アイゼンハワー大統領のタフト・ハートレー法発動により中止</p> <p>27日 ○ヨルダン、対英同盟の破棄を宣言<br/>○中共・カンボジア共同声明</p> <p>28日 ○仏、ガソリン割当制実施、約30%削減(29日実施)<br/>○韓・米友好通商航海条約調印(ソウル)<br/>○周恩来中共首相、東南亜諸国歴訪の途次訪印</p> <p>30日 ○米政府、西欧に対処石油援助緊急計画発動</p> |
|---|--|